



### 学校給食共同調理場統合について問う

**答** 統合後も引き続き、食の安全・安心でおいしい給食の提供に努め、教育面でより大きな役割を果たす



**問** この統合により、会計年度任用職員の人員費を削減することにつながるが、これは子育て世代の働く場所を奪うことであり、子育てしやすい環境づくりに反するのではないか。

**答** 本人の希望を踏まえ、これから勤務条件等を調整します。

**問** 児童生徒は、今後とも減少が続く見込みであり、設備の老朽化した江田島学校給食共同調理場を西能美学校給食共同調理場に統合し、1カ所での効率的な運営を行う計画です。

**答** 児童生徒は、今後とも減少が続く見込みであり、設備の老朽化した江田島学校給食共同調理場を西能美学校給食共同調理場に統合し、1カ所での効率的な運営を行う計画です。

**問** 食育について。

**答** 学校における食育の目標は、教育活動全体を通して、児童生徒に食に関する正しい知識や望ましい食習慣を身につけさせることと、家庭や地域と連携した食育の充実をはかることです。食育を通して知識技能の習得とともに生産者等に感謝する心を育み、人間関係を形成することを大切に、安全・安心な給食を提供していきます。

**問** 学校給食全般に関わる学校と家庭の連携した食育の方向性について。

**答** 子どもたちが健全な食生活を送れるよう、食育の一層の充実に努めます。

**問** 統合計画が出た段階で保護者や学校関係者に説明がないのはなぜか。

**答** 不特定多数の方が利用する施設ではないからです。

**問** 西能美学校給食共同調理場で1回だけ双方の調理場で作られる量の給食を作り配送し、その後の片付け等の作業はしていないが、全ての工程を実施せずに安全・安心な給食の提供ができるのか。

**答** 令和4年度中にタイムスリッパをみてテストします。

**問** 地元江田島市産の野菜の取り扱いには、今後どうする予定か。

**答** 献立を工夫するなど地元食材を可能な限り使います。



### 「子育てしやすい環境づくり」について問う

**答** 成果・課題を整理しながら、より良いものにするべく取り組む



**問** 令和3年度子育て施策の成果は。

**答** 令和3年7月には、子育て世代包括支援センターに大型遊具を整備し、令和3年度から全ての保育施設を認定こども園化しました。また、ファミリーサポートセンターを開設し、地域の中で子育てを助け合う有償ボランティア事業を進めています。乳幼児等医療費助成事業では入院分の対象者を中学3年生まで拡大、産婦健康診査事業では産後の無償検査回数を拡大、不妊治療費助成事業では特定不妊治療だけでなく一般不妊治療への助成対象の拡大などにも取り組んできました。

**問** 施策を実施していく上で、課題は。

**答** 病児・病後児保育事業では、毎年の事前登録や事前診察が必要であることから、利用しにくいとの声があります。また、ファミリーサポートセンターについては、活動実績は37件にとどまっています。子育て世代包括支援センターでは、施設から遠い地区の方の来館が比較的少ない状況

**問** 令和4年度へ向けてどのようなようにつなげていくか。

**答** 課題を整理しながら、より良いものにするべく取り組んでいきます。家庭総合支援拠点の機能を整備することとしており、現在の子育て世代包括支援センターの充実をはかるもので、児童の状況把握に努め、課題を抱える家庭への支援を強化し、児童虐待等の未然防止に努めるものなどです。江田島市の未来を担う子どもたちを大切に、子育てでやさしいまちを創るという理念は「変えてはならないもの」です。その心構えを持って事業を推進していきます。

**問** 児童虐待については、対応が遅れることのないように横断的に対応され、情勢の変化の早い現代においてこれまで以上に市民の方、子どもたちの声を傾けていく必要がある。

**答** 児童虐待については、対応が遅れることのないように横断的に対応され、情勢の変化の早い現代においてこれまで以上に市民の方、子どもたちの声を傾けていく必要がある。



### 子育てしやすい環境づくりとしての公園・校庭の整備推進について問う

**答** 限られた財源の中で将来を見据えた公園整備を進める



**問** 昨今の小学校校庭の遊具は必ずしも充実していないように感じるが、近年の撤去・新設状況はどうか。

**答** 小学校の遊具は、児童の発育・発達に欠かせないもので、体力・運動能力の向上のためにも、計画的に配置したいと考えています。平成24年度以降では、大

**問** 市長が掲げられる「子育てしやすい環境づくり」を進めるには、市長自身が言われるように「江田島市で子育てしたい」と感じることができると、安心で魅力的な子育て環境を構築することが待望される。「子どもが自由にのびのび遊びたくなる場所（公園・広場）の確保について」どのように考えるか。

**答** 子育て世代のニーズに寄り添った公園整備が必要であることは認識しています。一方で、利用の少ない公園や類似施設との統合、効率的な管理のあり方などを検討する必要もあります。限られた財源の中で、将来を見据えた公園整備を進めていきます。



小学校の遊具が等しく充実するよう取り組みを!!



### 高齢者支援の充実について問う

**答** 今後も認知症の方が住み慣れた地域で暮らし続けることができる地域づくりと認知症施策の充実をはかる



**問** 認知症施策の取り組みについて伺う。

**答** 認知症の方が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるためには、認知症への理解に対する普及啓発の理解に、早期発見・早期対応の普及啓発、早期発見・早期対応の普及啓発、早期発見・早期対応の普及啓発が重要です。また、認知症に対する偏見は未だ根強く残っており、正しい知識と理解がされず、適切な医療受診や介護サービスにつながっていないケースもあります。

**問** 本市では、普及啓発として「認知症サポーター養成」や「認知症カフェ」の推進を行っています。「認知症サポーター養成」とは、病気の症状や接し方など、本人や家族を支えるものとして、現在、1165人のサポーターがいます。「認知症カフェ」とは、本人や家族、地域の方や専門職の方等、誰もが集まってくる場として、情報交換ができる場です。現在、月1回、市内2カ所で開催しています。

次に、早期発見・早期対応として、窓口や電話による相談体制、「認知症初期集中支援事業」を実施しています。「認知症初期集中支援事業」とは、認知症が疑われる方、認知症の方およびその家族を訪問し、認知症についての困りごと心配なことを確認し、その上で、適切な医療や介護サービスを利用につなげる事業です。相談体制では、市域包括支援センターに推進員を配置し、対応しています。さらに、認知症の方の衣服などにシールをつけることで行方不明の場合の早期発見につながる「高齢者等見守りシール事業」を推進しています。



見守りシール